

アンケートに記載されたコメント（一部重複を省略）

回答欄以外の場所のコメント

- 飲料水はもともとミネラルウォーター。子供がいないし、一人暮らしなので気にせずスーパーで売っているものは産地を見ているが変わらず買った。
- 仕事場では変化した。
- 但し、福島や被災地域のを積極的に購入。
- 高齢なので気にしないことにした。
- 震災のときに海外に居住していたので直接影響はありませんでした。
- 放射性物質など含むものは流通していないと考えている。
- 行政もしっかり管理している中であって（あまり信頼されていないが）必要以上に神経質になる事はないと考えている。
- 時々、応援のつもりで被災地の産物を買うことはあります。
- 市場に流通している商品は、安全なものと考えています。その為、特に気にしていません。
- 過剰反応者に困っております。居住地では問題を感じません。
- 私の周りには食生活を変えた人はいた。
- “実際の食生活はほとんど変わらないが、食生活に対する考え方が変わった。
- 放射性物質汚染（微量でも）が人間に対する影響がよくわかっていないのに、大丈夫だとしている一部のものの理解が出来ない。真実が知りたい。（日本で公開されない現状）”
- ただ、中国産だからというだけで判断しておらず国産でも、いつまでおいても決して発芽しない玉ねぎやジャガイモなどは次から買わないようにするなど不自然な野菜について注意している。
- “個人的には変化は無いが、一時的にペットボトルの茶、ミネラルウォーターがスーパーの店頭からほぼ売切れた時には驚いた。
- 現在は、水、非常食（カンパン、レトルト食、ラーメン）の備蓄を実行している。
- 給食を食べる子供の親より、産地の問い合わせがある。
- 地域によってはHPで公開するところもあったようです。
- 個人では特にはないが、職場では魚は西日本、肉は青森、北海道、西日本など選択することが当たり前になっています。
- 北海道という地域のためか、特に気にすることのない生活をさせて頂いています。
- 避難所にいたため、3~7月まで弁当生活で栄養バランスは取れていたと思うが、味覚が変わった気がする。避難生活のため家族が二重生活、夫は酒量が大きくなり血液が濃くなりなり食事に気を使う様になったがメタボは治りません。
- 省エネ（なるべくエアコン等つけない様にしている。）、お風呂の水は、直ぐに流さない。（トイレ用）食生活は単純に料理出来る様な物を使用。
- 最初はかなりナーバスになりましたが、自分なりに調べたり聞いたりして会津は大丈夫だと判断。ならばセシウムどうのと気にしながら食べるのは美味しくないので気にしないことに決めました。ただ、自分に小さな子がいれば慎重に慎重を重ねたと思います。
- スーパー等の売り場の品揃えが多少変化したぐらいで目立った負担はない。
- リスク、食品についての勉強をしていたので特に変えていません。
- なるべく生協にしているの。
- 家族の住居が別々なので、なお一層絆が強くなった。
- お風呂の水を抜かないようにした。
- 貝類を控えるようになった。
- 放射性物質のありそうなものは買わないようにした。

- 何十年と水はミネラルウォーターを使って料理、飲料しているので、今の生活は変わっていません。生協にお願いしているので、生協がモットーとしている食の安全安心を信じているので、そんなに心配していないし大変になったと思っていない。
- 田舎から米、野菜が届くが他の人にあげられないので、お米は一年買わずに食べた。(福島会津、宮城)
- 一応ある程度の食品を準備していたので、あわてて走らなくてよかった。ただ、電気が止まったり、いろいろ困ったことが起こるだろうとゾッとしました。食品の内容は変わっていません。
- 震災以前から野菜や食品添加物など気を付けています。
- 生協に入っていた友人が「生協は福島産とか近県の野菜ばかりなので放射能汚染が怖いのでコープをやめた」と言っていました。よく見て買えば大丈夫なのではと私は思う。その方は、全部九州産とかのを頼んで注文して送ってもらっているみたい。
- 電気はコンセントをはずすようにしている。
- 家の中の無駄を考え片づけました。
- トラックの音や地鳴りのような低い音を聞くと、心臓がドキドキしたり、めまいがしたりするようになった。
- 私の生活自体は変わらないが、実家の母は東北の食材は全く買わなくなった。
- 福島や近県の産物でも、流通しているものは出し先を信じて購入している。年齢も50代なので多少のリスクは覚悟の上です。
- 友人は東北の物を買わないようにしている。
- 私は病気治療の為、放射線を限度まで使いました。その為、食品のほとんどを放射線をなるべく含まない愛知以南から取り寄せている。
- 少しのゆれでこわいと思うようになった。逃げる時何が必要なのか考えるようになった。

- 1~3の回答は私自身ではなく妻の行動です。
- 子供も20歳を過ぎていたため。知人が福島で農業をしていて、千葉に住んでいる私達が食生活に敏感になる必要はないと思った。
- 夫婦共に福島出身で、実家から米や果物を送ってもらうことが多かった。

食生活が変わった場合の内容についてのコメント

- 飲料水、米を炊くときミネラルウォーターにしている。魚は特に気にしていないが、肉に比べて余り食べない。
- 食べて応援しようということで、積極的に東北地方のものを買うようになった。
- 産地含め、摂取する内容もバランスを考えるようになった。乾物、缶詰等は、これまで自分が以前から知っているもの中心だったが、どのようなものがあるか目を向けるようになった。食べられる期間に注意し保存する場合、気を付けるようになった。
- 魚を西日本、輸入品にした。野菜をなるべく西日本のものにした。
- キノコの産地をチェックするようになった。
- 非常食が増えたので、それを定期的に更新しつつ、ある種訓練的に非常食を食べる回数が増えた。
- 一時期ミネラルウォーターを飲んでいた。
- 産地を選んで購入する。魚介類のメニューが減った。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた(子供のみ)。なるべく南の地域の作物を買うようになった。(特に子供のもの)
- 乾物のストック、ミネラルウォーターの購入。その他は、あまり気にせず何でも食べています。
- ミネラルウォーター使用。野菜の産地。仕事場では米の産地を関西にという保護者の要望がある。
- 食材購入時、産地を選ぶようになった(特に西の物を中心に)。魚は産地を特に気を付け、骨、内臓

は食べなくなった。

- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。備蓄を考えて購入するようになった。
- 野菜等を買う時、福島産と他県のものがあったら、他県のものの方を買ってしまう。
- 産地を確認して食品を購入している。魚を食べるのも少なくなりました。
- ウォーターサーバーを使用。産地を気にしている。非常食を準備した。
- 食事に使用する水はミネラルウォーターを使用した。(授乳中だった為、乳児への影響を心配して)
- 福島の物を避けていたが、今は逆に食べるようにしている。出ているものは基準値クリアしているため。
- 保育園の給食で使用する野菜は、東北の物は使わなくなりました。
- 福島産の米、ひとめぼれを家族で好んで食べていましたが手に入らなくなりました。
- ヨウ素が短期間(8日位)で体外へ排泄されることを知るまでは、ほうれん草の使用をやめていたこと、福島産の野菜の使用量も減った。
- 震災前は福島の農家からお米を購入していたが、生協から買うようになった(お米以外は福島産のものを使っていますが、毎食食べるものは何となく心配になってしまう)。
- ミネラルウォーターを使用(赤ちゃんの食事のみ)
- 生産地を見て野菜、魚、米などを購入するようになった。
- 産地を少しだけ気にするようになった。しいたけ、れんこんを食べる頻度が少しだけ減った。水をストックするようになった(ウォーターサーバーを使うようになった)。
- それぞれの仕事の都合で食事時間(夕食)がバラバラだったが、一緒に食卓につくようになった。食事内容は変わっていない。
- 産地に記名のない生鮮食品には不信感をおぼえま

した。できるだけ、必要な食品のみを購入するようになりました。

- 国産の牛肉をできるだけ食べないようにしている。
- カップラーメンなどを常備するようになった。揚げ物をしなくなった。(購入するようになった)産地を必ず確認するようになった。牛乳を買わなくなった。
- 水道水も飲むが、日常使う非常用のストックとして宅配水を始めた。魚も野菜もどうも食べたい気がしない。
- 福島(茨城)産水産物、キノコ、川魚、ブルーベリーなどを注意している。
- 水道水の汚染の報道がされた際、数ヶ月間ミネラルウォーターを購入。(乳幼児がいたため)
- 福島県のキノコと野菜は避けている。
- 実家の竹の子の先端を食べなくなった。
- 福島への支援のため意識して福島産の果物を購入。
- 子供には、福島県産、茨城県産の食品を与えない。
- 東北近県の生鮮食品を避けたこともあったが、現在は応援のため積極的に購入。
- 米は2010年(平成22年)産のみ確保している。魚介類、きのこ類(太平洋産、東日本産)は一切食べない。産地不明はもつてのほか。免疫力を上げるとされるサプリメントを利用。極力外食はしないようにしている。「食べて応援」はしない。
- 産地が西日本の農作物を食べることが多くなった。(近くのスーパーマーケットの店頭で、それらが並ぶようになったから)
- 水を保管している。非常食を備蓄している。家で食べるが多くなった。
- スーパーで無料の精製水を妻が使用していた。(子供のため)
- 特定の産地の農作物を食べなくなった。(幼児が二人いるため。私本人は気にしていない。)妻の精神的安定の為。
- 可能なら東北産の食品を意図して買う。

- 水を購入するようになった。(ペットボトル、天然水など) 太平洋側を避けるなど魚の産地を気にするようになった。加工された魚(煮魚など)は、産地表示がないので不安を感じるようになった。放射性物質基準があり、基準外の物は出回ってないと思うが確立として万が一を考えてしまう。
- 飲食物の国内産地に注意。外国産品の選定多くなる。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。福島県産の果物が購入されなくなった。(上記と考え方は異なっているが家の人の行動は変えられなかった。)
- 震災直後、買い物に行っても加工食品が何もなかった。
- 魚を買う際に産地を気にするため(千葉県産、東京湾あるいは太平洋など) 食べられる魚が少なくなった。(チリ産のシヤケに偏ってしまふ。) 野菜、果物の産地を気にする。根菜(レンコン)などは特に気にする。
- 震災直後3ヶ月ぐらい飲料水をミネラルウォーターに変えた。生鮮品の産地確認。キノコ、果物を控える。生協が増えた。相対的に海外品が増えた。
- 放射能汚染地域の製品の購入を控えるようになった。(政府が発表している「安全宣言」の信頼性が無くなったためと思われる。「直ちに健康に影響はない」と発表、SPEEDYの非公開 etc、避難地域の時間経過と共に拡大。
- 被災地で復興された製造メーカーの商品をできるだけ購入するようにしている。
- 放射性物質の汚染により、福島県および近い県のもものは(海、山、川のもの)は避けるようになった。
- 飲料水は外国のものを購入。主食となるものは輸入品に変えた。イカは食べない。食料はできるだけ輸入品を購入(1年以内)
- 牛肉をあまり食べないようにした。
- 近くで収穫された物はあまり食べなくなった。水道水はそのまま飲まない。海で釣ってきた魚は食べない。
- 東北支援の目的で”東北産”を優先的に購入する事が多くなった。
- 西日本産など産地の米を選んで食べるようになった。水、非常食を常時確保するようになった。
- 放射能汚染が高い地域(東北、北関東)も野菜の購入をなるべく避けた。(女房ですが)
- 被災地支援としているものを購入。
- 食品をストックしている。放射性が気になる地域のものを買わなかった。(1年くらい)
- 茨城県産の野菜等、被災地域の野菜や魚等を積極的に購入するようになった。
- 牛乳やヨーグルトは北海道産のものにしている。
- 福島産の米購入を中止した。キノコ類の原産地表示を注意して選別するようになった。(なるべくローリスク) 学校給食原材料の内容に感度を上げている。
- 毎年食べていた近所の竹の子を食べないようにした。
- 特定地域の魚介類を以前から食していたが流通量が減っている。今まで(震災前までは)あったのだが。大量生産される味の良くない野菜を食べるケースが増えた。
- 東北6県産の魚介類は購入頻度が著しく減った。
- 原則、関東、東北の食物は食べない。
- 東日本の太平洋側で獲れた魚を食べないようにしていた。東北、関東産の野菜を避けていた。東北、関東産の牛肉を避けるようにしていた。今はあまり気にしない。
- 魚を食べる機会が減った。農産物、主に野菜の生産地が中部地方より西の物を買う傾向にある。特に福島県に近い物を買わなくなった。
- 産地を必ず見るようになった。また、やたら安い野菜や露店売りのものは買わないようにしている。
- 今まで、海外産を避けて国産をなるべく食べてい

たが、最近では国産にこだわらない。国産の方が逆に避けているものもある。(海産物、海草など)

- 買い物(食材)で産地を確認するようになった。本来してはいけないとおもいつつ関東方面の産地のものはどうしても避けてしまう。もともと産地消を心掛けていたので特に変わった訳ではないが。また、中国産野菜も以前から買わないようにしていたので産地確認は以前から留意していたが、子供がいるのでやや敏感にはなったと思う。
- 茨城県産、福島県産の農産物を積極的に買うようになりました。
- 妹が東京に住んでいますが、魚は缶詰、水はミネラルウォーターにしています。
- 東北エリアの食物を買わなくなった。関東の物を極力買わない。
- 福島県に行ってもメヒカリが食べれなくなった。
- 東北、関東地方産の食品(野菜、食肉、魚介類等)の購入を避けている。放射能汚染に関して同地方の食品に問題があるとは考えていないが、万一を考え少なくとも子供には食べさせたくないと考えている。ただ、中高年は少々放射能汚染があっても、一般食品なら100ベクレルをこえることはないので食すべきと考え本人はあまり気にならなくなっている。
- 外食が減った。
- 震災後1年ほどの間だったが、海の物に関しては産地を見て購入していた。
- 産地を確認する。(小さな子供はいないが、今後、親になるような家族に影響がないか、問題ないとわかってはいるものの気になる。
- 産地の確認。牛乳を北海道の物に。飲料水はミネラルウォーターに変えた。
- 食品の産地について気にするようになった。だからといって〇〇産の食品は食べない等はしていない。
- ミネラルウォーターを飲むようになった。野菜の

産地を気にするようになった。

- パルシステムで買い物をするようになった。(放射性物質の検査をしているため)
- 原木しいたけは避けるようにしている。
- とにかく産地を気にするようになった。全ての食材、水などについて知るようにしている。
- きのこと類を食べなくなった。ミネラルウォーターに変えた。
- 魚を食べなくなった。
- 魚は大好きなので食べるが、産地はなるべく日本海で捕れたものを購入するようにしている。キノコや山で採ったものは食べなくなった。
- 茨城県産のレンコンを買わないことがあったが直ぐに買うようになった。(放射性物質を気にする必要はないと判断したため。)
- 子供の口に入るものはミネラルウォーターを使っていた。
- 同居の保育園児の飲料水のみミネラルウォーターに変えた。
- 食材を買う時は、できるだけ原発(福島)から遠い産地、工場のものを選んで買うようになった。値段が少し高くなる位は気にしていない。買い物の時間がない時や、どうしても使用したい食材が原発から近い物しかない場合は、普通にその場にあるものを買うこともある。
- 福島原発地域、又は近隣の地域の食品の使用は控える。
- 飲料水は海外の物。産地はなるべく遠い所の物を買う。
- 飲料水は水道から飲用することはなくなった。魚については海が繋がっているという点からしようがないが、肉に関してはその地域の生産の物を買うのを控えた。
- 水道水を基本的に使っているが、ミネラルウォーターをまとめ買いするようになった。乾物類(震災前のものを購入しなかったため)を購入。魚の

産地を西日本に変えた。

- 葉物を食べるのを控えた。生産地を気にした。
- 西日本産の食料を食べるようにしている。
- きのこと類を買うことが減っていた。(一時的) 保存食、水を買って置きやすくなった。
- 牛乳、乳製品が手に入りやすくなった。
- 手に入る限り、西日本の肉、魚(西日本での加工魚を含む)を子供に与える。葉物野菜(ほうれん草、小松菜)は冷凍の九州産を、生協(パルシステム)から購入、子供の食事に利用。大人は特に変えていない。
- 飲料水、調理水をミネラルウォーターに変えた。放射性物質の高い地域の産地は使わない。
- 震災の原発事故後、ヨウ素を含む食材を常時とっていました。当時、東京在住であったため西日本で製造された水を購入して食事を作っていました。水道水は一切飲まないようになりました。東日本産の水産物、農産物は購入しなくなりました。
- 水道水にフィルターを使用(東レ製)。食品の生産地により選択購入。
- 原発付近の産地のものを食べなくなった。小さな子供がいるため万が一があってはいけないので。国、自治体、食品メーカーの検査はサンプリング方式なので100%安心できない。
- 自分は買い物をしていないので分かりませんが、もし買い物に行くのであれば、申し訳ないのですが東北の物は買いたいと思いません。目に見えないことですが、今後、長く生きる為にも健康には気を付けたいと思います。
- 自分達は特に変化しないが、東京他都会に居る子供達(孫含む)には田舎から野菜、飲料水等を定期的に送っていた。
- 自家生産の野菜を多くした。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。放射能汚染が心配な物(東北の野菜や肉など)避ける様になりました。食品だけでなく空間線量や土壌の汚染

情報を集めました。

- 食料水を全てミネラルウォーターに変えた。東北地方の米類は一時的に控えた。
- 特定の健康食品を常用している。表示をよく見るようになった。”
- 一時期、魚を控えた。産地を確実に見るようになった。
- 去年3月11日原発事故において、家族をどこに避難させるかから始まった。東京にたどり着き避難生活が始まるまで約2ヶ月、食に関しては生きる為に口に入る物、例えばおにぎり1個を分け合ったりとかなり栄養不足だったと思います。現在に至るまで体調が避難前に戻らない、母も激度せ、孫たちは鼻血の回数が増え、嫁はホルモンバランスの崩れから卵巣手術となってしまいました。
- 神奈川県産の食材を買う(食べる)様になった。東日本地域の食材はなるべく買わない(食べない)様にしていた。
- 生かされている事に感謝し1日1日を大切に生きて、少しでも世のため人のために成る生き方をしようと思います。
- ミネラルウォーターを使用。現在も使用しています。洗い用水(水道水)と飲用と分けて使っている。
- 生協食品を今まで以上に重要視するようになった。(野菜、果物、きのこなど季節の物)
- 福島にいるときは、水はミネラルウォーター、魚は安全だと言われても食べない。福島(南相馬市)から送られて来た食品は口に入れない。親類から送られて来ていたが、その家族は内部被ばくしていたので検査を受けていない野菜、果物は食べていない。(後の検査で発覚)
- 太平洋産(東日本側)の魚介類を避ける。東北、北関東のキノコを(できるだけ)食べない。
- 玄米をやめた。
- 水、ミネラルウォーター食べ物、缶詰、瓶詰など一週間分食べられる様に保存。

- 東北産の野菜を避けた。(一時的に) 正確には、店頭に並ばなくなったので買えなくなった。
- 牛乳は産地を選んで買っている。
- 実家の庭でしいたけを作っていたが、震災以降作るのを止めました。
- 震災直後はライフラインについても、食品流通についても不都合が大きかったので、長期的に保存可能なミネラルウォーター、非常食の確保に努めました。
- 天然のキノコ、山菜を食べなくなった。
- 浄水器の使用。食品産地を選別して購入。(化学的検査実施後は特に選別はしていない) 貝類、低層生活魚の購入を控えた。
- 東北産の食品を避ける傾向にある。(特に子供の食べ物)
- 本アンケートの主旨とは異なっていると思われませんが、被災地の食品(加工品含む)は積極的に購入していました。
- 東北地本の産物を選んで購入。日本酒も応援酒を居酒屋で飲んでいる。
- 子供用のみ、飲料水をミネラルウォーターに変えた。東北に近い産地の食品を避けた。
- 両親がテレビの影響を受け、一時的に被災地の物を食べなくなった。今も、被災地の食品の摂取量を気にしており、大丈夫という言葉にも聞く耳を持たず困っている。子供が生まれた時の障害を両親が気にし理解してくれない。親子関係にも影響を与える問題となった。
- 飲料水を購入するようになった。産地を気にするようになった。
- アンコウなどの海底の魚で、茨城県や福島県で採れたものは買わなくなった。
- 店頭から被災地の食べ物が一時無くなった。その後、応援セールなど安いから買うようになった。
- 福島県産と新潟県産の米があったが、新潟産の方を購入した。(放射線の営業があるのではないかと不安に思ったので。値段は福島県産の方が安かった。)
- 食べれるときに食べておこうと、たくさん食べるようになった。(東日本大震災当時、仙台におり数週間食べ物に困ったため)
- 三陸の方の魚は買わないようにした。
- 野菜やお茶の葉などの産地を気にするようになった。(放射線による汚染が怖いので、なるべく九州産のものを買うようにしている。)
- お米は兵庫県産にした。
- 被災地産のものを利用するようになった。
- 買い物するとき、産地を気にするようになった。リスクに負けないような身体づくりを意識。サプリメントの常用、白米から胚芽米や玄米、有機野菜を摂るようになった。
- 魚は生協で購入している。(検査されて安心だから)
- 東の葉物野菜、しいたけ等、しばらく控えた。最近は、検査済みのことであまり気にしていない。
- 水、逆浸透膜の浄水器を使った。(スーパーのもの) 魚、産地をかなり細かく見るようになった。たまに海外の野菜をあえて買うようになった。
- 子供、孫用に水を買った。
- 果物類が福島の物が届かなくなった。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。西日本産の野菜などを買うようになった。
- 子供の為に産地を気にします。
- 産地を確認するようになった。子供の口に入れるものなので、できるだけ福島産の物は控えている。
- きのご類に対して気を使うことが多い。
- 保存できる食品を買い置きして、乾物などのメニューを増やしたりして、今後の震災に備えています。
- 飲料水、ミネラルウォーター。魚、西日本のものにするようになった。野菜、北関東産の物は避けるようになった。
- 茨城産、宮城産は買っていない。白菜など必要な

- ものは仕方なく買う。
- 野菜購入時は産地を気にしていた。今はあまり気にしていない。
 - 缶詰の利用
 - 子供に与える水は、できるだけミネラルウォーター（ウォーターサーバー）にした。汚染度の高い物（貝類、まぐろ）を食べる回数が減った。食料品を非常用に買い置きするようになった。産地をチェックする。
 - 特に食べなくなったものはないが、産地を気にして見るようになった。販売しているものは検査されて安全な物ではあると思いますが、2種あったら放射能が気になるところは避けてしまいます。
 - 震災直後は、魚や野菜は普段より安全な物かどうか確認するようになった。
 - 保存食を栄養バランスよくそろえるようになった。（米と水だけにならないように）。産地を気にするようになった。（以前以上に）
 - お米を変えた。福島のお醤油をあきらめた。直後、水が届かなかった。
 - お米を取り寄せていた先を変更せざるを得ませんでした。（被災されたので）常に1.5ℓか2ℓのペットボトルに4本位は汲み置きすることにして、1日でそれを使ったら空いたら汲むようにしています。
 - 5才以下の子供だったので、1年目は、野菜、米、魚は関東より西のものを食べてました。1年以降は、魚以外は関東の物を食べました。でも山菜の物があれば購入。
 - ミネラルウォーターを非常用に床下に置いた。
 - 電気を無駄にしないようにしている。
 - 産地を気にするようになった。魚を食べるのが少なくなった。（最近は少し気にしないようになった気がします。）回遊魚は産地をあまり気にせず食べようと思うようになりました。
 - 申し訳ないと思いつつも産地を気にするようになり
- りました。
- 缶詰等の買い置きをしておいた。
 - 食べ物を大切に作る。残り物を腐らせたりしない。産地を見るようになった。”
 - 魚、野菜等セシウムの高い物は食べない様になっている。
 - 節電するようになった。車のガソリンを早めに入れるようになった。なるべく九州の物を買うようになった。
 - 産地をより気にするようになった。迷った時は買わない。
 - 飲食品類は原則関西以西の原産の物を利用。直接口に入る水はミネラルウォーターを使用。魚は東北方面、太平洋側関東近郊の産地のものは利用しない。
 - 小学生の飲料はミネラルウォーターにしている。牛乳は北海道産にしている。
 - 子供用は野菜の産地がとても気になるようになった。家にミネラルウォーターのストックをおいてある。
 - 乾物類を使用する。
 - ミネラルウォーターにした。子供には（産地の基準値を自分で決めて）魚を限定して食べさせるようになった。野菜、牛乳、肉などもできる範囲で九州等の物を買っている。
 - ミネラルウォーターをストックするようになった。常備薬を多めに医師に出してもらっている。クラッカーや、直ぐに食べられるお米やおかゆを買った。
 - 野菜、米、牛乳などの食品を被災地以外にした。
 - 東日本の農産物を購入するのを悩むようになった。トイレトーパーなど、以前より多めに家に置くようになった。
 - 野菜をよく洗う。
 - 米をとぐ水をミネラルウォーターにしていた。（一時期）

- 生しいたけとか魚とか放射能汚染があると言われると買わない程度。
- なるべく産地の安全な野菜を食べている。八王子産の野菜など多く取り入れている。
- 白米と玄米を半々にして主食にしている。
- 幼稚園に水筒を持っていくようになった。(水道水なので変化は無い)
- 直後はいろいろ考えて食品を選びましたが、若い人達はともかく、あと何年生きるかと考えたら、なるべく被災地の食品を選ぼうと思います。
- スーパーから生協に変えて、放射能検査の表示を見るようになった。
- 何を信じていいのか分からなくなった。
- あまり気にせず東北産の物を避けず食べている。
- クリクラ（ウォーターサーバー）を入れた。
- お米を開いたら、次のお米を買う。放射性物質の値を時々見たり、新聞の記事を見る。
- 放射能検査がしっかりと確かめられる物を買うようにしている。
- いろいろな考え方や子供の事を考えると難しいが、60代の2人世帯なので悩みながら食べている。いつまで続くのか田舎でも困っています。
- 同じ産地のものばかりを買わないようにしている。以前は東北産のお米をずっと購入していたが、北海道産や九州産のお米も購入するようになった。
- あえて言えば、福島産とか東北の食品を買うようにしています。
- 多少、野菜、お米等の産地の原発影響の心配はあります。浄水器を付けてあるので水などはそんなに気にしていないのですが、情報には耳を傾けている日々です。
- お茶は西日本産にするようになった。米は福島から送られてくるので食べている。(放射能検査をしているとのことなので)
- 家にあるレトルト食品を使用していた。
- “料理をする時に火や水を節約するよう気を付けるようになった。
- 特に変化は無いが、放射性物質についての検査結果をよく見て買い物するようになった。
- 出処の分かる（道の駅など）野菜、肉、魚、果物などを出来るだけ選ぶようになった。3.11以降、放射性物質の食品はやはり気になり、お米は北海道産など生鮮食品も南の方のを選んでしまいがちになった。野菜のサプリメントをストック。缶詰ストックのチェックなど。
- できるだけ多様な物を使用するようにしているが、震災後、特に産地や種類を限定せず幅広い地域の物を用いるようにしている。
- 野菜は料理をする前にしばらく水につけて置いてから使う。八宝菜のような時はサッとゆでこぼしてから料理に使う様にしている。出来るだけミネラルウォーターを使う様にしている。
- 地域を必ず見て買っています。魚は関西地方、お米は関西又は日本海地方にしている。牛乳は最近、多摩の牛乳が出てきました。以前は北海道牛乳、水は地元の湧水です。
- 24才の子供が食材の安全を気にするようになった。(福島産で大丈夫か)
- 冷凍庫を空にした。(冷凍食品を使わない、買わない)
- わかめ等、ヨード放射性物質の排出など考えて摂っています。
- 被災地の事を考えると贅沢はできません。無駄をなくす。
- コープ商品を多く利用している。放射性物質をよく調べてもらっているので安心している。
- きのご類は全く食べない。
- 水道水は料理には使用していない。野菜、魚など産地を少し気にしている。
- 食品の産地を選ぶようになった。ミネラルウォーターに変えた。雨の日は必ず傘をさす。(小雨の時も) 風の強い日は洗濯物の干し方に気を付ける。

- 1年以内はカップ麺や缶詰等たくさん買っていました。
- 無洗米に変えた。
- 被災地の物を取り入れるように心がける。
- 放射能汚染の心配や不安もあり、福島県産の農作物の利用が減った。逆に、宮城県、岩手県などの農・水産物は被災地支援の気持ちから今までよりも積極的に利用するようになった。
- 国産の食品を買うようになった。
- 子供が生まれたので、子供だけはミネラルウォーターにしている。同じく、子供には東北の野菜、食物を避けてしまっている。親の私たちは食べています。
- 野菜や果物など生産地を買う前にチェックするよ
- を利用しているのでさほど気にはしなかったものの、産地などの表示には気を付けるようになった。
- 貝、海底魚少なくなった。口外品多い。野菜、福島産は少ない。
- なるべく電気を使わないようにしている。太陽光を取り付けているので、安い料金設定の時に家事をしている。
- 産地を気にしたり、飲料水はスーパーの浄水器の水にしたりしている。
- ほうれん草を食べる量が減った。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。産地をチェックするようになった。
- 水道水をなるべく利用しない。野菜は西の物をなるべく購入する。
- 直接飲む水は市販の物を使っている。野菜は出来る限り熱を通して食べている。
- ミネラルウォーター、ロングライフパン、ロングライフ牛乳を常備して、賞味期限内に次々と飲用。
- 野菜を（これまで以上に）たくさん摂ることを心掛けている。冷蔵庫にいつも20の水を3本~4本入れている。（スーパーで無料で入れられる。）
- 息子が、とても汚染されているのではないかと
- 言って震災産地を嫌っている。
- 魚（カレイ、鯛など食べない）
- ミネラルウォーター2.野菜トイレットペーパーは12ロール入りを8個、ウーロン茶6本入りを20ケースとかいろいろな物をたくさんストックしておくようになったので家の中がせまくなった。
- 産地が気がかり。特に魚は気がかりです。2.放射能の検査結果には目、耳が傾く。大丈夫と分かった物は東北日本海側の物を利用したいと思います。
- 短期・・・直後、大津に住む妹から水、スキムミルク、野菜を送ってもらって生活しました。現在・・・むしろ市場に出ているものは積極的に福島、東北のものを利用しています。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。5年間保存できる食品を買うようにしました。
- 震災直後は福島産のもの購入を控えました。
- あさり、のりなどを食べる頻度が減った。
- 被災地の物を積極的に購入する。
- 子供のミルク用の水（ミネラルウォーター）を買うようになった。今は20100円前後で購入できますが、当時は500ml130円前後でも購入していました。
- 飲料水をペットボトルに貯めている。
- 被災地の物をなるべく買うようにしている。
- ウォーターサーバーをレンタルした。
- 米をとぐ水や、子供（4才）の飲料用のミネラルウォーターを使用。子供が好きなプチトマトやきゅうり、レタスなど購入時に悩んだ。
- ミネラルウォーターを使う様になったがすぐに元に戻った。
- どこで作られた食べ物か気にするようになった。ミネラルウォーターを使用。
- 小魚、貝類は食べなくなった。
- 火を使うのが怖く、電子レンジに頼ってしまった。
- 小学生の子供達のみ、水はペットボトルにした。1年ぐらいは福島産は控えた。

- 節電に気を付ける。資源を無駄遣いしないようにする。食品の放射性物質をチェックしてある物を選ぶ。
- 健康食品を多く用意してある。
- 常時 4~50 の飲料水を確保している。普段は、それらを植木に使っています。備蓄を増やした。
- 放射能汚染が気になるので、汚染されている食品を避けるようにしている。テレビや新聞などの放射能の数値に気を付けている。
- 申し訳ないですが、産地をチェックし茨城産、福島産は購入量が減りました。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。野菜の産地を変えた。
- 食品の放射性物質がどの位影響しているのか検査結果を確認したり、どこの産地の物かしっかり確認してから購入するようになった。
- しばらく飲み水をミネラルウォーターにしていた。産地を前よりも注意して見るようになった。(状態、場所によって買わないことも)
- 放射能の影響がありそうなものは食べなくなった。
- 孫(乳幼児)用の果物は放射能汚染が気になり、産地を考慮して購入した。(特に昨年)
- 出来る限り産地を選んで購入した。福島産の物は避けた、また千葉、茨城、埼玉、栃木のものは購入しないよう注意した。米・野菜・果物・お茶・牛乳・魚(多少)水はミネラルウォーターの基準値が、ということもあり、また多摩地区なので大丈夫かと思ひ特にこだわらなかつた。
- ミネラルウォーターを常に買い置きするようになった。牛乳の産地を気にするようになった。
- 西日本や北海道の野菜を食べるようになった。
- 水道水を調理、飲料用で使わなくなった。野菜・魚の産地を気にするようになった。魚を食べる回数が少なくなった。
- できるだけ保存の効く食品を用意しておき、順次食べては買い足していく。
- 魚を食べなくなった。信頼できる所からしか買わなくなった。
- 1才の孫がいるので、孫の分は配慮している。(水とか食べ物)
- 野菜を東京産や立川産のもの。
- 保存食を用意するようになった。検査済みの物を買うよう心掛けた。
- 魚など近海物を避けて、水揚げ場所を考えて購入した。購入するときに生産地にこだわった。
- 東京にいるのが不安で一時期、子供(4才、2才)を連れて宮崎県の実家に帰った。食品の産地を気にするようになった。
- しばらくは福島県産の野菜を買わなかったが、今は気にしないことにしている。飲料水をスーパーで汲んでくる水に変えた。(1年以上、今も)魚はあまり食べなくなった。
- 就寝時、枕元にバッグを置くようにしている。ミネラルウォーターを常備している。
- 産地を意識したり、放射能検査をしているかどうか気になる。(全部ではないですが)
- 食品の産地を確認。ミネラルウォーター(生で飲む場合)に変えた。
- 放射性物質を浴びたかもしれない地域の野菜等、ほんの少しの間だったが買い控えた。今はあまり気にしない。
- 残留放射能の値が気になった時期があった。
- 野菜・肉・魚などは、放射能検査の基準値をチェックしてから購入するようになった。
- 放射の対策で、子供にヨウ素入りの天然サプリメントを飲ませている。
- 東北の魚などあれば進んで購入している。子供に食べさせるものは、特に気を使う様になった。無駄な買い物減らすよう努力した。
- 北海道産、九州産、沖縄産など、子供がいるから産地をこだわって買うようになった。
- 関西の出身なので、西の物が手に入り安くなった

- ので利用している。(放射能との関係ではありません)
- 極力、被災地産の物を購入、利用している。
 - 魚は産地を気にして、サケ、サンマは食べなくなりました。
 - 6ヶ月位は放射線のリスクを考えてしまいましたが、生活は変わりませんでした。(年齢も年齢なので)
 - 1年以内は、ミネラルウォーターを買い控えた。現在、被災地の物を買うようにしている。
 - 一時期、ミネラルウォーターにしていた。とにかく、野菜等よく水洗いしていた。
 - 特定の魚類(カレイやホッケ)などは食べなくなった。
 - 福島、宮城、岩手のものを、なるべく買うようにした。
 - 米の産地を変えた。ミネラルウォーターを備蓄するようになった。
 - 浄水器(水道に取り付け)の水を4才の娘に飲ませるのが怖くなり、ミネラルウォーターを続けている。大人はいいが、子供には東の方の魚は食べさせられない。
 - 産地を気にして買うようになった。なるべく南の物を選んでる。子供が4、5才なので良い物を選ぶようにしている。
 - 生産者の事をよく考えるようになりました。リスクをあおる情報に流されず、自分で調べ納得した商品を買うようになりました。お米は宮城、福島の物を購入しています。
 - 汚染が怖くて、北の方の魚を控えるようになった。
 - 被災地近辺の野菜、果物、魚を食べなかった。
 - 飲料水をスーパーの浄水器から汲んだものか、ペットボトルを利用するようになった。
 - 野菜等、産地や安全性など考えるようになった。水を常備するようになった。体に良い物を取り入れるようにしたため、調理に気を使う様になった。
 - 子供が小さいので産地を気にする。ミネラルウォーターやお茶などストックを多くしている。
 - 水の確保、乾物類をストックするようになった。
 - 飲料水、レトルトのごはんを用意した。缶詰を買った。
 - 検査を信用して東北の物を買う様にしている。
 - 缶詰類や保存食品等を買うようになった。水も常時2箱(12本)位は置いてある。
 - 子供の分は全て飲料水、料理に使用する水はミネラルウォーターに変えた。産地の分かる野菜、米等買うようにしている。
 - 当時は薬物やしいたけを食べない様にしていた。小さい子供はいないので、あまり気にしないようにしていた。
 - 我が家は大人だけなので、国が安全とした被災地周辺の物をなるべく買う。支援したい。
 - 魚、お茶、野菜など口から入るものが汚染されていないか気にするようになった。
 - 被災地支援を考えて買い物するようになった。
 - 海産物を買う時に、産地をよく見て買うようになった。
 - 海の底の方にいると思われる魚はNG。魚より肉に手が出るようになり、産地を大分気にするようになった。
 - 飲料水をミネラルウォーターに変えた。野菜を水につけて洗うようにした。
 - 震災食後のことですが、東北地方で採れた魚を買わなくなった。(沢山の人が流された海のものが購入できなかった)水道水を飲み水として使わず水を買うようになった。特に子供には飲ませないように、お茶を作る時も買った水を使う。以前はお茶は水道水で作っていたが、今でも買っている。
 - 野菜は丁寧に洗うようになった。牛乳は北海道産などを選ぶ。魚を食べる回数が減った。カレイなど海底に住む魚は食べない。
 - 食品の安全性をより確認するようになった。産地

などのラベルをよく見るようになった。

- 出来るだけ宮城県、福島県産の物を買うようにしている。
- 電気ポットからポットに変えてヤカンで湯を沸かしている。生産地をある程度は気にして食品を購入している。
- 食品全てにおいて産地を気にするようになった。しかし、検査がきちんとなされていることを知り、風評被害にも惑わされることなく、むしろ被災地産を出来るだけ購入するようにしている。ボランティアへ気軽に行けないので、日々できることは買って応援することかなと考えている。
- 外出の時、水分やあめを持ち歩くようになった。
- ミネラルウォーターに変えた。申し訳ないのですが、福島県産のものは買わなくなった。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。東日本方面で獲れたの魚を食べなくなった。福島県産の野菜を買わなくなった。
- 以前はただ何となくストックしていたが、震災を期に定期的にチェックして必要な物を買っておくようになり、買って置いて忘れてしまい古くなってしまったという事が少なくなった。放射能のことは、それ程気にしてはいない。(小さい子供がいないため)
- 色々な食べ物を複数回に分けて購入するようになった。(特定の食べ物に偏ると、万が一放射能が付着している場合、たくさん摂取してしまうことになる。)
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。関東近海の魚をあまり買わなくなった。同じ品物であれば、多少金額が高くても福島より遠くの産地のものを選ぶようになった。
- 米ぬかを食べていたのをやめた。(米ぬかは放射線の検査をしていないのではないのでしょうか?)
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。魚は食べなくなった。野菜と肉は九州産などにしたりして

いる。東都生協にも入っている。

- 被災地近くのを購入する事が、復興につながるのではないかと進んで購入するようにしている。
- 震災から10日間位は外出を控えた。(子供達は特に)水道水は飲まないようにし、飲料と炊事にはミネラルウォーターを使った。魚を控え肉中心にした。のりを子供たちに食べさせた。
- 浄水器を付けた。
- 食品及び多種の品物を大事にするようになった。若い方々があまり気にすることが多過ぎると思う。
- 水は常備置いている。食料はコープなので安心して前と比べると質素になったと思う。
- 出来るだけ現地から遠い地域の物資を買う。(完璧には出来ないと思うけれど)だんだん最近が変わってきて、必要な物は入手する。
- 生協に加入した。
- 料理はほぼ水道水。直接飲むときはミネラルウォーターになっている。あきらめ半分、財布の中身と相談の日々です。体には青身の方が良いのだけど、回遊魚だから九州や四国の物も関係ないかと半分あきらめている。
- 野菜に気を付けている。魚はどうしようもないと思う。
- 飲料水をミネラルウォーターにして20のペットボトルのお水を6本以上は自宅に置くようになった。お米を福島から買っていたので、買えなくなり近所のお米屋さんで買うようになった。南相馬市の祖母の畑の物が一切食べられなくなった。
- 半年位はミネラルウォーターを使用。ほうれん草などの葉物は買わなくなった。原木栽培のきのこ、しいたけは買わない。魚はノルウェー、アラスカ、チリなど外国産に変えた。2011年中は、なるべく九州や関西地方の野菜や果物、お茶などを買った。
- 出来る範囲で被災地の応援をするとは別に、被災地産のものには神経を配り、安全が確認されていないと思われるものは出来るだけ購入しない。安

全性と責任がうやむやにされるのが嫌だから、応援は別の方法です。

- 飲料水を多く買っておくこと。缶詰等の保存食品を買い貯めておく。大切な物を袋に詰めて、直ぐに持ち出せるようにしておく。
- ほとんどの食材をアルカリイオン水で洗ってから使う様にしている。
- ミネラルウォーターに変えた。(子供が産まれたのもきっかけ)
- 子供がいるのでミネラルウォーターを購入していたこともあったが、限度があるので現在は水道水を使用している。
- 小さい子供がいるので、東北の魚、野菜をあまり食べなくなった。
- 孫の所にミネラルウォーターを届けた。
- 国産の物をなるべく使用するようになった。
- スーパーの場合は、なるべく有機野菜。コープは産地が分かっているので安心して購入。
- 肉をよく食べます。
- 近県の食品に気を付けていたが、魚類以外は普通に戻りました。
- 魚の腸は取り除く。鶏肉を食べるようになった。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。魚・野菜をなるべく東日本から遠い国産のものにした。
- ミネラルウォーターや非常食を常備するようになった。保存食をストックする。産地を気にするようになった。
- 野菜の産地にこだわった時期があったが、現在は以前と変わらずに購入して食べている。
- 産地を見るようになった。(それまでは国内産であれば気にしなかったが、福島周辺の物は控えるようになった) ミネラルウォーターの予備を 206 本から 18 本に増やし、普段も飲み水はミネラルウォーターを飲むようになった。保存食の買い置きを増やした。
- ミネラルウォーターサーバーを使用するようになった。

った。信頼できるメーカーの食品や店舗で購入するようになった。外食するときは、安全な食材を使っていると思える店を選ぶようになった。

- 水を他地域の天然水をとるようになった。(例、静岡の水等)
- 安価な物を選ぶより、産地を見て購入するようになった。乳児がいるので水を購入するようになった。
- 貝類を食べなくなった。
- 朝食用のパンが買えなかったのでご飯にしたが、納豆が買えなくて困った。
- 海で獲れる食品を控えた。あさり、シジミ、カキは産地を確認するようになった。水道水もカートリッジをマメに換えるようになった。
- 水を宅配していただき、サーバーで湯 90 度をいつでも利用出来るようにしました。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。(甲状腺が未発達な子供の対してが主な理由) 西日本産以外の魚を食べなくなった。
- 飲料水のボトルを用意している。小魚の産地を見て購入するようにしている。
- 産地を確認し福島とあると躊躇したり、支援といひ聞かされ購入したりした。店頭に並ぶという事は検査済みと頭で解っていても、昨年の新米は美味しいと思えなかった。
- 風評されている果物等は、福島産でも食べるなどしている。
- 産地をチェックするようになった。安全だと思う産地を選んでいく。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。魚を食べなくなった。健康食品を常備している。東北、関東の牛乳、肉、野菜はなんとなく避けている。
- 放射能の検出されたものを、できるだけ食べない様にしたいと思う。
- 飲料水を買っている。(0 歳児がいるため) 福島の野菜は買わない。

- 産地のチェック。底魚は食べない。日持ちするものを常備するように心がけるようになった。
- 北海道産のお米を買ってしまった。三陸わかめには手がのびない。
- 野菜、果物、牛乳の産地を確認するようになった。申し訳ないのですが福島産は買いません。シイタケも買いません。魚は外国産、北海道産、西日本方面を買います。肉もきになる場所ですが。
- 魚は北海道で獲れたものを多く、時には輸入物を食べるようになった。野菜、米を福島より離れた地域の物を買うようになった。
- 1年以内は魚を買うことが少なかった。子供が魚をあまり食べなくなった。現在は保存食の購入が増えた。
- ミネラルウォーターはなるべく遠くのものを使用する。(今は木曾の水) 魚の量は減り産地も考えています。
- 食材の生産地を必ずチェックするようになった。政府の発表を信じることができず、子供や青年(家族)も食事作りを担う母親としては、原発事故地から遠い産地の物を選ばざるを得なくなった。
- 少しでも放射能の少ない物とを考えていますが、どこまでしんじたらいいのか。全く魚を食べないとはいかないし。
- できるだけ放射能の検査をしているものを選んでいきます。
- できるだけ食品等もすてる部分を少なくして、利用するよう心がけている。
- 飲料水の備蓄をするようになった。風呂を洗った後、水を張っておくようになった。東北の魚はなるべく食べないように、野菜、米も控えるように。
- ミネラルウォーターに変え飲むとき、汁物を作るときは水道水は使用しない。
- 野菜や魚の産地を気にするようになった。やはり東北のものは買わなくなった。しかし、1年後ぐらいから、食べるようになった。
- 水の買い置き。缶詰の買い置き。
- 備えて、保存のきく食品と水を常に用意しています。
- 産地を気にしております。生協の物を多く使用するようになりました。
- 息子家族のこと、飲料水は(1年間)ミネラルウォーターを使用。孫が口にするお米、リンゴなど購入を避けています。
- 飲料水、料理用の水はミネラルウォーターを使用。野菜、魚、肉の全ての材料の産地が気になるようになった。毒素を排出してくれるという玄米を時々食べるようにしている。
- 魚・肉などは出来るだけ西のものを食するようにしている。
- 買うときに放射能や産地を気にしてみるようになった。
- 米と魚は西の産地から選ぶようにしている。野菜や果物も出来る限り西の産地から選んでいる。
- 東北産・関東産の海産物を避けるようになった。
- 放射性物質を除去する浄水器を設置した。
- 産地等を気にかけるようになりました。震災後数ヶ月は特に気にしましたが、今は特別には野菜等は気にしません。でも、わかめ等は未だに三陸のものを買う気になれない。
- ミルクを飲んでる子がいたのでミネラルウォーターを使用。
- 現在も底魚は食べるのに考えてしまう。
- ミネラルウォーターを2Lをケースで用意しているくらい。乾物類など以前より買い置きしている。
- 根菜類と魚は産地を気にして買っています。(原発地近海の魚は買っていない)
- 飲料水を何時も準備している。カップ麺、乾物、レトルト食品など準備。
- 水、くだもの、野菜など東京より西のものを使用。今は特にこだわらないようにしている。
- 三陸のわかめなど、生産できなくなったものが使

用できなかった。申し訳ありませんが、福島県産など放射線の可能性がある所の産地はなるべく避けている。

- 手に持った品物の産地をみてしまう。関西方面の品物を購入するようになった（孫がいるため）
- 子どもの飲料水はミネラルウォーターにしている。産地をチェックするようになった。
- 1年間ぐらいは、調理も含めミネラルウォーターにしていた。食品も産地を選んで購入していた。米はいまも、無洗米にしている。このところ、検査もきちんとされている、という印象を受け、水道水も飲用します。コープに入会したきっかけも、放射能検査をちゃんとしてくれるから。
- 備蓄の食品・飲料が増えた。国産が以前は一番と思っていたが、海外の方が安全かなと思い、三陸産をはじめ東北・北海道産の食品は買わなくなった。買ったもごく少量。
- 汚染の可能性の少ない食品を選んでいる。（特に米や魚は西の方など）
- しいたけ等きのこ類、海藻類など食べるのを少なくしている。海底近くにすんでいる魚は避けている。水を購入している。
- 最寄り駅の前にある広場に、車（軽トラ）で野菜を売りに来ている八百屋さんがいて、以前はよく利用していましたが、震災以降、（安全性を）検査したスーパー、COOPさんのものしか購入しなくなりました。八百屋さんの車も見かけなくなりました。
- 食事が単純化した。
- 1年以内では、半年くらいミネラルウォーター。野菜などは西のもの。牛乳も西のもの（豆乳を取り入れる）。子どもは給食の牛乳を8月以降飲んでいません。1年以上も現在も、以前ほどではないが、根菜類は気にしています。牛乳もできるだけ所在が分かるもの。
- 飲料水をミネラルウォーター（ピュアウォーター）

に変えた。無添加加工品や無農薬商品を取り扱う宅配業者（らでいっしゅぼうや）に会員加入しました。

- 牛乳は北海道の物に変えた。（特に子供のために）
- 魚はあまり食べなくなりました。米も放射能検査がなされているものを購入しています。
- 特定地域で栽培された食品（野菜、肉、魚）は買っていない。事故後、一年ぐらいは子供はミネラルウォーターにしていた。（今は水道水）
- 東北の魚はいまだに基準超えが出ているので食べない。
- 食品の産地にこだわるようになった。きのこ、近海魚を若い人に食べさせるのをためらう気持ちがでてきた。
- あまり身近に感じない・できるだけ地元の食品を食べるようにしている。
- 岩手・宮城・福島産の農産物の購入は控えた。3県の表示物に注意した。
- 野菜等はできるだけ近くの産地の物を選ぶようにしている。牛肉はオーギービーフを主に利用。
- 飲料水、料理に使うものもイオンアルカリ性のに替えた。
- きのこを選ばない。産地を選ぶ。（不明なものは買わない）牛肉は少し。
- 東海地域の食品を食べるようになった。東北地域の食品を買わなくなった。
- 魚等の原産地等、表示を注視するようになった。
- 食べ物の生産地を確認してから購入するようになった。しいたけ、わかめ等海外産のものを使っています。
- 産地を注意している。海産物は中部地方より西方圏の地域のもの。
- 放射性物質に関心をもつ様になった。
- 産地に注意を払っている。添加物に注意している。
- 群馬産、茨城産の野菜がスーパーにあっても購入しない。風評被害云々言われても、除染もまだ終わ

らない中、風向きによって汚染されているのではと安心を考えてしまう。

- できるだけ地元の食材を選ぶようになった。
- 食品に対しての考え方全て。
- 生産地、製造場所のチェック。東北3県は特に注意する。
- 表示の有るものを選んで買っている。
- 放射能は大丈夫か、きのこ類や海底の貝類は特に心配です。
- 食への関心が強くなった。
- いざという時のために非常食を月1,2回は食べ慣らす。使って非常食に何か問題があれば改善する。
- 国産だけでなく県産地も気にするようになった。
- 産地を気にしています。以前はなかった食行動でした。
- 飲料水をミネラルウォーターに変えた。しばらくは生の魚を食べなかった
- 飲料水は買って来た物を使うようになった。他の食品には特にこだわりもなく、むしろ福島産とか検査済みを買ったりしている。
- 野菜等の産地を見るようになった。測定結果等をよく見る。しいたけは、原木、苗床など気にしている。(大丈夫とは分かっているもなるべく避けるものもある)
- ご飯を炊く水と飲料用に井戸水(九州の)を利用している。魚(近海)は食べない。きのこはホクト産のものだけ。しいたけは食べない。
- 野菜や食品は西のものを選んで買うようになった。今は普通に買い物をしている。(安心と分かっているも何となく心配)
- 竹の子を全く食べていない。(大好きでよく食べていた)しいたけもあまり食べていない。
- 釣り(太平洋)に行かなくなった。(喜んで食べられない)1年半でまた行きはじめた。家庭菜園で作った物を食べずに捨てた。
- 国内産のヒラメやカレイなど、海底で生育する魚

は食べなくなった。他の魚は食べている。

- スーパーで野菜を買わなくなった。ミネラルウォーターを使う量が増えた。
- 震災直後は、米や野菜など被災地のものは買わない傾向にあったが、今は安全性も分かっているため応援しようという気持ち。
- 魚の獲れた地域が気になった。シイタケよりシメジなど少し気にした。(市場に出ているのは大丈夫だと思いつつ)しかし、家庭菜園のネギ、ニラは、良く洗えば大丈夫だろうと使っていた。
- 水をミネラルウォーターとRO水に変えた。魚、貝、きのこ類をあまり食べなくなった。外国産の食品を食べるようになった。産地を気にして親戚の自家菜園の物を食べなくなった。(宮城、福島、茨城の親戚)
- 魚を食べる回数が減った。どの魚を選べればよいか迷うことが多くなった。地元の竹の子を食べなかった。
- カレイやタラを避けるようにした。
- 1年間、水同水を使わずペットボトルの水にした。
- 根菜類の皮を食べなくなった。(以前は、皮も調理したり、皮ごと調理していた)底魚(カレイ等)をあまり食べないようにしたり、どこで獲れたものかを気にしたりするようになった。
- 全ての物について、東日本で獲れたものは、あまり摂らなかった時期が短期間あった。
- 千葉県は魚がおいしいので、以前はたくさん食べていました。震災以降は食べる量が減り、一般の方々と同じ位、標準的な量になったと思います。シイタケやレンコンは九州産の物を購入。(九州出身のため)
- 小さな子供のミルクを作るミネラルウォーター(赤ちゃん用の水)をケース買い、ストックしている。
- レトルト食品、インスタントラーメンなど、非常用に買い置きするようになった。

- 子供に水道水を与えない。魚、肉は外国産を選ぶ。野菜は産地をチェックする。
 - 飲料水や料理水をハワイウォーターに変えた。
 - 子供に水道水を飲ませなくなった。野菜等をよく洗うようにした。
 - 一時期、関西産地（水揚げ）の魚を食べていた。（放射能を心配して）
 - 強いて言えば、支援として福島や東北の食物を出来るだけ購入しようとしている。
 - 震災後半年ぐらいインターネット（oisix）で食品を（九州や北海道中心）購入。現在は生協で千葉県産の野菜を中心に購入。魚は九州産や放射性物質の検査をしているものを購入。
 - 被災地応援で、茨城、福島、宮城の野菜を初めてする色々な食品を利用するようになった。
 - 半年くらいミネラルウォーターを購入した。牛乳を十勝牛乳に変更した。
 - 飲料水としてミネラルウォーターを用意している。バランスよく食品を購入する。
 - 飲料水はミネラルウォーターのペットボトルに変えた。1年くらいは日本近海で獲れた魚が食べられなかった。西日本の野菜しか食べる気がせず取り寄せたりしていた。
 - 魚介類は、なるべく西の方（紀伊半島より西）や日本海、北海道産の物を選んでる。
 - 飲料水は大きなボトルで注文するようになりました。備蓄の意味も込めて。
 - 被災地応援の為、お店で購入するときは、そちらの土地の品を購入している。
 - 家庭菜園のほうれん草と原木しいたけの食べる量を減らしている。あさは大好きだけど食べなくなった。カレイ、ヒラメも食べなくなった。もう食べても大丈夫とは思っている。
 - 2ヶ月位は菜っ葉などの葉物は生産地を南の方にしていたが、今は気にせず食べている。ヒラメは食べないが、他の魚は食べている。
 - 魚を食べる量が減った。（今は深い所に住む魚）産地を気にするようになった。
 - ミネラルウォーターは非常時用に買うようになった。被災地支援になるようなものを買う。加工品など色々な産地のものを選んでる。
 - 飲料水をミネラルウォーターに変えた。魚を食べなくなった。食べ物について神経質になり、食べ物が偏ってしまう心配があった。特に魚、野菜類は注意して購入している。
 - 1年以内は飲料水をミネラルウォーターに変えた。1年以上は産地をなるべく遠くの物を選んでる。
 - ペットボトルの買置き、ストックは増えた。非常食の量は増えた。
 - いわゆる被災地の産地（福島）などは避けるようになった。少なくとも子供のは食して欲しくない。
 - 牛乳は北海道。子供にはミネラルウォーターを使っている。野菜等に関しても、なるべく西の産地の物を購入している。お米は宮崎や鹿児島産など九州産など日常食には特に気を付けている。
 - 近所のスーパーの買物では、生産地について気にかけるようになった。放射性物質のデータより産地、産品を選んだ。色々な産地を利用した。
 - 震災産地の物は購入しない。しかし、ホットスポットの（我孫子、柏）野菜は購入するしかないの食べている。
 - 野菜を産直の店で買うようになった。震災のとき流通が混乱してスーパーから米や野菜が少なくなったとき、産直で買ったら安くておいしかった。
- 食生活を変えたことに伴って変わったこと
- 飲料水代分の費用が必要になった。
 - 食費が増えた。外食が減った。生産地を気にするようになった。
 - 「安全な食品を手に入れることが難しい」という不満、不安（思い込み）が日常化した。
 - 買い溜めするようになった。一回の食事で食べる

量が減った。

- 体重増加。
- 買い物に行く機会が増えた。
- 特になし。ミネラルウォーターは震災前にも一時していた習慣。
- 災害用食料、飲料水の充実により一時的に出費が増えた。しかしこの後は、それら保存品含めての回転を意識的に考え、災害前のように” 買っぱなし→忘れる” 事があまりなくなった。
- 刺身を食べる回数が減った。
- 非常食の常時準備。
- 食費が上がる。買い物が重い（水なので）。
- ミネラルウォーターの消費期限があるので、水道水を今まで使っていたが、少し予算がかかるようになった。
- 今は、関西の仕入れが難しい。
- “水をくみに行く” ということをしていなかったので大変になった。
- 長期保存できる「パン」等、常に置いている。高い物でも「産地」を見て購入している。結果的に食費は増えていると思う。
- 食費が少し増えた。
- 備蓄品も常用しながら、補充しているのであまり変わっていない。
- 買いたい時に買えなかったり、若干食費が高くなったりすることもある。
- 買い物は大変になった。仕事を持っていると夕方とか遅くに買いに行くので希望の品が買えないことがほとんどでした（売り切れ）。
- 手に入りづらい食材が増えた。
- 水代は出費が増えた。
- 食費は減ったように思えるが、宅配水を使用することによって電気代が上がったり、水を収納する場所を確保しなくてはならなくなった。食事内容も単調になってしまう。
- 実家で取れた野菜を食べないとき、野菜の食費が

増加したように思う。

- 新鮮で美味しい果物を格安に購入できた。（特に2011年夏）
- 高くても生産地を選んで購入するので食費が増えた。
- 全く対策を取らないよりも安心して生活できていると思っている。
- 食費は少し増えたと思う。（あまり気にならない）
- 一時的に入手ができずに食べない物があった。（もやしや納豆など）市場が回復したら以前のように戻りました。
- 特になし。買い物はネットでできるし、食費はもと多かったから。
- 特になし。ただし、東京湾への釣りは行かなくなった。
- 魚を食べる機会が少なくなった。
- 買い物が大変になった。
- 食費の増加。ペットボトルのゴミの増加。
- どうしても産地を気にするため、九州産などできるだけ遠くのものを探すためスーパーを幾つものしごすることになり、買い物が大変になった。摂取する食品の偏り。
- 買い物に時間をかけ、食費が増えたと思う。
- 安易に他の選択肢があるので変わらない。
- 食べたい物を簡単に食べられなくなった。
- 食費が増えた。野菜類の摂取量が減った。
- ミネラルウォーターの分量が膨大になった。
- インターネットなどで米や水を遠くの地域のものを購入する。産地が明記されているものを購入する。
- 買い置きをするようになった。無くなる少し前に買うようにしている。
- 野菜等は他地域の物より安く売られているので家計的に助かっている。
- 買い物が大変になった。店員へ質問するケースが増えた。

- 生鮮食品は産地表示の明確な物を購入するようになった。
- 食費増大。果物、魚の偏り。
- 産地を気にするようになった。(今まで中国産を避けるくらいしかしていなかった)
- なるべく原産地、加工地を見て食品を購入するようになった。(風評被害と言われているも実被害もあると思ひ、なるべくあやしいものは避ける。)
- 特にないけど、夏の間はキュウリやトマトを家で育てて食べたりしました。
- 質素になった。
- 他に食べるものがあるので特に変わっていない。
- 香川県では特に支障ない。東京に住む子供には、しばらく野菜などを送付した。(全てがサイエンスで対応することはできない)
- 東北、関東地方産の食品を購入しなくなったので、それに伴い購入できる食品の種類が減った。それに従い食事の楽しみが若干減った。
- あまり気にしない。
- 食費の増減。メニュー作成時の制限。
- お米など、少しは備蓄するようになった。
- 普段からミネラルウォーターを買っていたので特に変わらない。
- 食べなくなった物がある。
- 買い物に行って、並んでいる生産地のものを確かめるようになった。放射能の知識等勉強した。
- 食材のチェックをするようになった。
- やはり、西日本の野菜を意識して買うようになってからは食費が増えました。(売っているスーパーが限られているので。)
- 食品の生産地等の情報をネット等で調べるようになりました。
- 買い物時、注意(生産地)するため時間と費用が増加した。
- 地産地消重視
- 買い物が大変になった。食費が増えた。関西に移住した。
- ミネラルウォーターを家族4人で使うことで出費は以前より多くなった。
- 家族バラバラなのでコミュニケーションが取れなくなった。食生活も個人になってしまい、コンビニやインスタントになり栄養のバランスが取れなくなった。
- いただきますの心掛けをもう一度大切にしようと思ひます。
- 食費の増加。飲料水ペットボトルの処分に余分な手間が発生。
- 全国からの食品、レパートリーが増えメリットが多い。(注文時の煩わしさは少々ありますが。)
- 二重生活の為ロスが多く、食費は増えている。酒量が増えた。
- 保存食を多めに買う。梅干し、乾物(切り干し大根、しいたけ等)、お茶、コーヒー
- 山菜などは子供の食べさせたくないの、義母へ放射性物質のことを話したりするのが大変。食卓に出して欲しくない物を出すので、子供が手を出してしまう。
- 季節感がなくなってきた。
- 購入する品目によって店を変えることがあった。
- 買い物(重い)が大変。水は使う量が多いので費用増。ゴミ(ペットボトル)の増加。
- ミネラルウォーターの費用が増えた。ペットボトルのゴミが増えた。
- 水は重く、買い物が大変になったのと、やはり食費が増えた。
- 私自身は一人暮らしなので被災地のものを買える状況下にあるが、一人暮らしの私が買うには多すぎる量で手が出にくい。一人用を用意してくれたら買いたい。また、スーパー等で見ず知らずの人が、それは被災地の(被災地が近いから)やめた方がいいと言われることがある。(声をかけられると買い物に時間がかかる)